

新都市社会技術融合創造研究会 平成22年度 事業計画（案）

1. 活動方針

平成14年度に設立された新都市社会技術融合創造研究会（以下「研究会」という）においては、設立後7年が経過し、当初5つのプロジェクトチームでスタートしたが、研究を終了したプロジェクトも含め、18のプロジェクトチームが活動を行ってきた。

本年度においては、本会の活動目的である産学官の連携による新しい技術の研究・普及をさらに進めるために、継続しているプロジェクトチームの活動支援を引き続き行うとともに、研究成果の公表、外部評価などを実施する。また、新しいプロジェクトチームの設立に向けて、WG活動の推進を図る。

2. 事業方針

（1）研究会活動の推進

研究会のさらなる発展、産学官連携における活動を推進する。

（2）プロジェクトチームの活動推進支援

プロジェクトチームの活動支援を引き続き行うとともに、新たな研究テーマの発掘における、WG活動支援、プロジェクトチーム設立支援を行う。

（3）広報・研修事業

研究会の活動内容について、研究会主催にてセミナーの開催を行う。また、委員会終了後、記者発表などにより広報活動の充実を図る。

3. 事業内容

（1）研究会活動の推進

1) 委員会の開催

各プロジェクトチームの活動状況を把握するとともに、道路に関する新技術等の情報交換の場となるよう委員会を開催する。

2) 幹事会の開催

委員会の円滑な運営のため幹事会を適宜開催する。

（2）プロジェクトチームの活動推進支援

1) 既存のプロジェクトチームの活動推進支援

現在、活動中のプロジェクトチームにおける活動の推進を図る。また、研究期間が終了したプロジェクトチームにおける研究成果の公表をセミナー開催を通じて行う。

（プロジェクトチーム一覧は別紙参照）

2) 新たなプロジェクトチーム設立支援

新たな研究テーマについて、研究者の公募を行うとともに、応募された内容について、新しいプロジェクトチームの設立を支援する。

3) ワーキンググループの活動推進

新たなプロジェクトの発掘、研究テーマ設定に向けての準備等を行う機関である、ワーキンググループの活動推進を行う。道路技術に関するシーズ、ニーズについて情報交換を行う。

(3) 広報活動

1) セミナーの開催

セミナーの開催においては、以下の通りとする。

- ▶ 研究会全体で研究成果や活動内容の公表を行う（全体セミナー）
- ▶ プロジェクトチーム毎に、全体セミナーとは別に研究成果の公表を行う（個別セミナー）

各セミナーの開催要領の具体については、別途検討する。

2) ホームページの更新

研究会の活動状況、セミナー開催案内、研究員の募集等について、近畿地方整備局HP内に掲載する。

4. スケジュール

本年度においては、委員会2回、セミナー1回を開催予定とする。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ・第17回委員会 | 平成22年7月 |
| ・第18回委員会 | 新規プロジェクトの状況等により開催 |
| ・第7回新都市社会技術セミナー | 平成22年8月頃 |
| ・個別セミナー | 適宜開催 |

以上

プロジェクトチーム一覧

プロジェクトチーム	プロジェクトリーダー	研究期間
インフラ資産評価・管理の最適化に関する研究	小林潔司	終了
I T Sを活用した道路交通ネットワークの高度化に関する研究	谷口栄一	終了
既設構造物の延命化技術に関する研究	宮川豊章	終了
透水性舗装の現状把握及びその各種都市環境への影響評価手法の確立	大西有三	終了
橋梁のコスト縮減構造に関する研究会	家村浩和	終了
トンネル坑口部付近における騒音予測に関する研究	松井利仁	終了
排水性舗装混合物のリサイクル技術研究	山田 優	終了
道路トンネルの健全性評価に関する研究	大西有三	終了
I T Sを活用した道路交通ネットワークの調査・評価手法に関する研究	谷口栄一	終了
I T Sを活用したまちづくりのための交通マネジメントに関する研究	谷口栄一	終了
積雪寒冷地における舗装耐久性向上及び補修に関する研究	小林潔司	H19～H21
鋼橋の疲労亀裂進展シミュレーション手法の開発とその維持管理への応用に関する研究	坂野昌弘	終了
道路防災モニタリングネットワークシステムの構築に関する研究	西山 哲	終了
景観性に優れたアーチカルバートを用いた盛土構造に関する研究	岸田 潔	H18～H21
既設橋の最適延命化方策の評価・策定に関する研究	宮川豊章	H19～H21
アンカー工設置のり面の健全性評価に関する研究	沖村 孝	H20～H22
舗装用骨材資源の有効利用に関する研究	山田 優	H20～H22
物理探査の連続計測による斜面地盤の工学的評価手法に関する研究	楠見晴重	H19～H22